

英語科学習指導案 [Challenge Course]

1 単元名 Program 7 “タコマの牧場で”

2 単元目標と主な言語材料

【単元目標】

- (1) 疑問詞whose, howと所有格を用いた会話活動や, 対話に多く見られる口語表現を用いた会話活動に積極的にとりくむことができる。 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) 疑問詞whose, howを使った基本文や, 代名詞について所有者を表す所有格を用いての対話活動を行なうことができる。 (表現の能力)
- (3) 疑問詞whose, howや代名詞について所有者を表す所有格を用いての会話表現の内容を聞き取ることができる。 (理解の能力)
- (4) 日米の日用品や食品のサイズの相違から, 国によって異なる文化や風習について理解を深めることができる。 (言語や文化についての知識・理解)

【主な言語材料】

- 基本文 名詞の所有格 This is my brother's bicycle. / That is my sister's bicycle.
 疑問代名詞の所有格 Whose bag is this?
 Howを用いた疑問文 How do you go to school?
- 連語・重要表現 Here's ~ . / I'm sorry.
 try ~ on / take a bite

3. 授業にあたって

(1) 教材観

本課は由紀がアンディーやケニーと一緒にアンディーの親戚の牧場に行き、そこで日本とは違ったいろいろな体験をするというストーリーである。生徒達にとって、旅行に関する場面は英語を使う機会としては最も自然なもののひとつである。旅行では乗り物の切符を買ったり、見知らぬ人に出会ったり、新しいことにチャレンジしその感想を述べたり、持ち物についても訪ねたりすることがよくある。特に生徒にとって「駅の窓口の英語」や「アメリカの貨幣」などは興味を持つと思われる。自然な状況の中でそうした質疑応答のバリエーションを体験し、習熟できるような取り組みが可能と思われる。

(2) 生徒観

今回の少人数クラスの設定では、今までの成績を考慮した習熟度別クラス編成を行った。どの生徒を見ても大変意欲があり、発言もよくする。授業の中ではより多くの英語に触れる機会を作るために聞くこと・話すことに重点を置き教師が英語を多用し、また機会を捉えて未習語を使う場面を設定してきたが、何ら抵抗なく受け入れる生徒が多い。そういう中で教師・ペアとのやりとり、応答の回数を増やし、「聞く」「話す」活動をより多く取り入れる工夫をしていきたい。

(3) 指導観 [共通の視点(b), (e)]

[challenge course] の生徒は興味、関心を持って言語活動に取り組み、一つでも多くの単語を覚えようとする意欲のある生徒が多い。所有を表すyour, my brother's, Kenny'sなどの表現は日常生活でも必要度が高い。視点(b)「学習の定着に応じた指導のあり方が考えられた授業」については、疑問代名詞所有格の形容詞用法は慣れるとそれほど難しくないため未習語, uncle, aunt, wife, husband, son, daughterなどを使ったペアワークで数多く取り入れ、語彙力を付けるような取り組みをしたい。

視点(e)「発表する場面が設定された授業」については駅や映画館などで乗車券や入場券を購入する場面のショートスキットをグループで作成し、語彙は未習のものでもどんどん取り入れ、しっかり練習してから発表しようようにしたい。

(4) 評価観

この単元では、行動観察、ワークシートにより行う。聞きたいことを英語で質問しあうやりとりの中で間違いを恐れず積極的に取り組む姿勢を重視し評価を行うことにしたい。

(5) 少人数クラスの設定にあたって

1学期は、ノートや課題の提出状況を元にしてクラス編成を行なってきたが、今回は夏休み後の課題テストの結果によってクラス分けを行なった。特に、「表現の能力」と「理解の能力」の習熟度によってクラス分けを行ない、次回の中間テストまでにその成果がでるように取り組んでいる。

Challenge Courseではreading学習からListening, Speaking学習へと広げていくことをねらいとして授業を進めている。基本事項の学習を繰り返し行い、教科書の基本文の定着ができた段階で教師またはペア同士で、既習表現を用いてできるだけ会話を続ける練習を行い、自分が使った表現が印象深く残るような授業を心がけたい。

4. 学習計画と単元の評価規準（総時間6時間）

次	単元名	①関心・意欲・態度	②表現の能力	③理解の能力	④知識・理解
一	1 Section 1	乗車券や入場券を英語で購入する言語活動に積極的に取り組むことができる。	所有格を理解し、状況に応じて適切に運用できる。		
	2 Section 2		疑問詞whoseで始まる疑問文を用いて、持ち主を尋ねる表現を運用することができる。	疑問詞whoseで始まる疑問文を含む対話を聞き、推測しながらその内容を聞き取ることができる。	
	3 Section 3		疑問詞howで始まる疑問文を用いて、方法について尋ねる表現を運用することができる。		アメリカ合衆国での生活知識を身につけ、異文化理解を図ることができる。
	4 まとめ	ペアやグループの活動において、間違いを恐れずに協力して積極的に取り組むことができる。		日米の日用品や他の国々での生活知識について、大切な部分を聞き取ることができる。	
二	5 Check& 6 Use		既習事項を用いて、自己表現ができる。		

5. 本時の学習（一次中の1時）

(1) 単元名 Program 7 Sharing the Housework

(2) 学習のねらい

・名詞の所有格の使い方を理解し、持ち主がだれであるか尋ねたり、答えたりすることができる。

(3) 評価規準

①乗車券や入場券を英語で購入する言語活動に積極的に取り組むことができる。

(関心・意欲・態度)

②所有格を理解し、状況に応じて適切に運用できる。

(表現の能力)

(4) 準備 CDプレーヤ・ピクチャーカード・フラッシュカード・ワークシート

(5) 学習活動と評価

段階 配時	学習内容・活動〔学習形態〕	評価場面・評価方法及び支援（・） □ … Bに引き上げるための具体的な手だて
導 入 10	1 Greetings [一斉] 2 Warm-Up 1) リズムでビンゴ 2) Review	<ul style="list-style-type: none"> ・単語の発表の合間にQ&Aを取り入れる。 ・前課のpicture cardsを用いて、既習事項のWho's~?/Does he (she)~?の復習を行う。 ・机間指導をし、生徒に賞賛の言葉をかける。
展 開 32	3 新出文型の導入 [一斉] 1) 「所有格」の構文を理解する。 2) P.54のLet's Listenを行う。 3) 新出語句の練習と本文音読 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> This is my brother's bicycle. This is my sister's bicycle. </div> 4 P.55の Let's Tryをする。 [ペア] 5 本文の音読と内容理解の確認 1) Q&Aを通して内容理解を行う 2) 英文を暗誦する。 [ペア]	<ul style="list-style-type: none"> ・写真、ワークシートを用いてその内容を表す英文を聞き、未習事項「所有格」の意味を類推させる。 ・名詞の所有格「普通名詞+'s」と「固有名詞+'s」を説明する。 ・フラッシュカードをリズムカルに見せて、発音させる。 <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 20px;"> <div style="width: 45%;"> <p>評価観点②</p> <p>― 場面設定 ―</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ペアで名前をいろいろかえて、~'s brother/~'s sisterなど所有格を用いて問答して、得た情報を書き込む場面を設定する。 </div> <p>評価規準</p> <p>A：はっきりとした大きな声で相手に尋ねたり、相手の質問に答えたりして、できるだけたくさんの情報を得ることができる。</p> <p>B：何とか対話を行い、言語活動に参加することができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○簡単な単語father, mother, sister, brotherなどを使って質問することから始めるように促す。 ○Who's Emiko's brother?など直接名前を聞くように促す。 </div> </div> <div style="width: 45%;"> <p>評価方法</p> <p>【行動観察】 【ワークシート】</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 20px;"> <div style="width: 45%;"> <p>評価観点①</p> <p>― 場面設定 ―</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 対話文を音読練習し、暗誦する場面設定をする。 </div> <p>評価規準</p> <p>A：英文を覚えて、ジェスチャーを加えて大きな声で対話することができる。</p> <p>B：英文を見ながら、相手に聞こえる程度の声で対話することができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○教師の後について1文ずつ区切って、読むように促す。 ○次時にも取り組み、定着するように励ます。 </div> </div> <div style="width: 45%;"> <p>評価方法</p> <p>【行動観】</p> </div> </div>
ま と め 8	6 発表 何組かの生徒は発表する。 [ペア]	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問や呼びかけなどの状況はイントネーションで表現させる。

英語科学習指導案 [Adoration Course]

1 単元名 Program 7 “タコマの牧場で”

2 単元目標と主な言語材料

【単元目標】

- (1) 疑問詞whose, howと所有格を用いた会話活動や、対話に多く見られる口語表現を用いた会話活動に積極的にとりくむことができる。 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) 疑問詞whose, howを使った基本文や、代名詞について所有者を表す所有格を用いての対話活動を行なうことができる。 (表現の能力)
- (3) 疑問詞whose, howや代名詞について所有者を表す所有格を用いての会話表現の内容を聞き取ることができる。 (理解の能力)
- (4) 日米の日用品や食品のサイズの相違から、国によって異なる文化や風習について理解を深めることができる。 (言語や文化についての知識・理解)

【主な言語材料】

- 基本文 名詞の所有格 This is my brother's bicycle. / That is my sister's bicycle.
 疑問代名詞の所有格 Whose bag is this?
 Howを用いた疑問文 How do you go to school?
- 連語・重要表現 Here's ~ . / I'm sorry.
 try ~ on / take a bite

3. 授業にあたって

(1) 教材観

生徒たちにとって、旅行に関係する場面は、英語を使う機会としては最も自然なもののひとつである。旅行中では乗り物の切符を買ったり、見知らぬ人に出会ったり、新しいことにチャレンジしたり、いろいろな物についても尋ねたりすることがよくある。本単元は、旅行中によくある場面を設定し、その状況のなかでも自然な感じで表現練習ができるような活動にとりくませたい。また、ユキがアメリカ合衆国にて出会う大きなサイズの物に驚くシーンなどを通して、国によって異なる文化などについても理解を深めたい。

(2) 生徒観

2組9名と「なかよし組」2名との合計11名のクラスである。ほとんどの生徒が英語を苦手としており、予習や復習などの家庭学習も十分ではない。しかし、英語を学習することを嫌いとする生徒はおらず、どの生徒も楽しく授業に臨んでおり、この雰囲気の中で一人ひとりが毎時間ごとに充実感を味わわせながら進めてきた。本単元も、毎時間ごとに少しずつ成就感を味わわせて、英語への自信を持たせたい。ただ、家庭学習が十分でないのは事実であるので、授業のテンポを良くしたり、時間配分を工夫するなどして、ノート作業やドリル学習の時間を確保し、最低限の学力が保障出来るよう心がけたい。また、そのことによって家庭学習への意欲の向上も期待したい。

「なかよし組」の2人については、今後必要であろう英語と接する機会を増やすとともに、2組の生徒と接する機会を増やし、同級生として交流を深める契機としたい。その上で、共に学習することによって、共生社会を生きていく上での一助としたい。

(3) 指導観[共通の視点：(a), (e)]

11人という、少ない人数であるため、一人ひとりの活躍の場を設定することが容易である。そこで、視点のaにある「全員が活発に学習し、生き生きとした表情で授業に臨む」ことと視点eにある「発

表する場面が設定された授業」を課題として、授業を進めたい。発表のさせ方については、一問一答の形式やロールプレイなど、小さなステップによる発表を繰り返す方法を取りたい。「なかよし組」の2人についても音読やQ&Aの場面を設定し、発表し皆からほめてもらう場面をつくり、同級生という仲間意識の啓発に努めたい。

(4) 評価観

この単元では、行動観察による評価を行なう。全体の前で自己紹介やロールプレイなどをさせ、1人を観察する形、ペアやグループ活動に指導者が全員を観察する形、発表の様子を全員で評価する形など、多用な行動観察の形を用いて評価してみることにした。

(5) 少人数クラスの設定にあたって

1学期は、ノートや課題の提出状況を元にして、クラス編成を行なってきたが、今回は夏休み後の課題テストの結果によってクラス分けを行なった。特に、「表現の能力」と「理解の能力」の習熟度によってクラス分けを行ない、次回の中間テストまでにその成果がでるように取り組んでいる。

このクラスでは、英語を苦手としている生徒が多いが、クラスの中でも英語力の差は大きい。ただ、少ない人数を活かして、一人ひとりに目を届かせて指導にあたりたい。

4. 学習計画と単元の評価規準（総時間6時間）

次	単元名	①関心・意欲・態度	②表現の能力	③理解の能力	④知識・理解
一	1 Section 1・2・3	Program5本文での言語活動に積極的に取り組むことができる。			
	2 Section 1・2		所有格の表現を状況に応じて適切に運用できる。		
	3 Section 2		疑問詞whoseで始まる疑問文を用いて、持ち主を尋ねる表現を運用することができる。	疑問詞whoseで始まる疑問文を含む対話文を聞き、推測しながらその内容を聞き取ることができる。	
	4 Section 2・3		疑問詞howで始まる疑問文を用いて、方法について尋ねる表現を運用することができる。		アメリカ合衆国での生活知識を身につけ、異文化理解を図ることができる。
	5 Section 3			日米の日用品や他の国々での生活知識について、大切な部分を聞き取ることができる。	
二	1 Check&Use	会話活動において、間違いを恐れずに協力して積極的に、取り組むことができる。	既習事項を用いての、自己表現を音声と筆記で行なうことができる。		

5. 本時の学習（一次中の1時）

(1) 単元名 Program 5 Section 1-3

(2) 学習のねらい

- ・ Program 5の本文の内容を、英文を聞き取ったり本文を読んだりして理解することができる。

(3) 評価規準

① Program 5本文での言語活動に積極的に取り組むことができる。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

(4) 準備 MDプレーヤ・ピクチャーカード・フラッシュカード・ネームプレート・ステッカー

(5) 学習活動と評価

段階	配時	学習内容・活動〔学習形態〕	評価場面・評価方法及び支援（・） □・・・Bに引き上げるための具体的な手だて
導入	15	1 Greetings [一斉] 2 Warm-up 1) Rhythm de Bingo 2) 基本文Dictation 3 Review 1) Reading(音読チェック) 2) Q & A	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペアでの会話活動にも取りませせ、雰囲気高める。 ・ スピードに追いつけることができない生徒には、単語を示して、最後まで取りませせる。 ・ 前時に学習した単元の音読練習をさせ、確認を行う。 ・ 音読練習をペアで取りませせ、確認させる。 ・ 生徒の能力に応じた発問を設定する。
展開	30	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>What does Yuki do at Takoma?</p> </div> <p>4 Listening & Meaning [一斉] 1) Listening 2) T or F / Meaning 3) Reading 4) T or F again / Meaning</p> <p>5) Writing 6) New Words 7) Reading 8) Role play [ペア]</p> <p>5 “Basic Sentences” [一斉] 1) Let’s Listen</p>	<p>・ 本文の内容を聞き取りと黙読で理解させる。</p> <p>・ 内容の理解度をT of F questionを用いて確認する。</p> <p>評価観点 ①</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>— 場面設定 —</p> <p>聞き取り，黙読の2つの機会を生かして，本文の内容を理解しようとする場面を設定する。</p> </div> <p>評価方法 【行動観察】 【点検】</p> <p>評価規準</p> <p>A：聞き取りや黙読を通して，本文の内容の理解を積極的にとりくみ発表することができる。</p> <p>B：聞き取りや黙読を通して，本文の内容を理解を積極的にとりくもうとすることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○次時以降にも繰り返しとりくみ，定着を図る。</p> <p>○生徒の苦手とする部分を把握し，その部分に応じた対策方法を指導する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全員が作業に取り組んでいるかどうかを確認しながら行う ・ フラッシュカードを用いてテンポ良くおこなう。 ・ 本時のみで定着させるのではなく，何度も繰り返し身につけることを伝えておく。 ・ 今回はリスニングのみとし，説明は次時に行なう。
まとめ	5	6 1) 次時の学習内容を知る 2) 復習Dictation [一斉]	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時の学習課題を伝えると共に，予習の点検を行うことを伝える。